

大学生への奨学金は、 どうしたら増えるのか？ ——韓国事例から探る

多胡 太佑

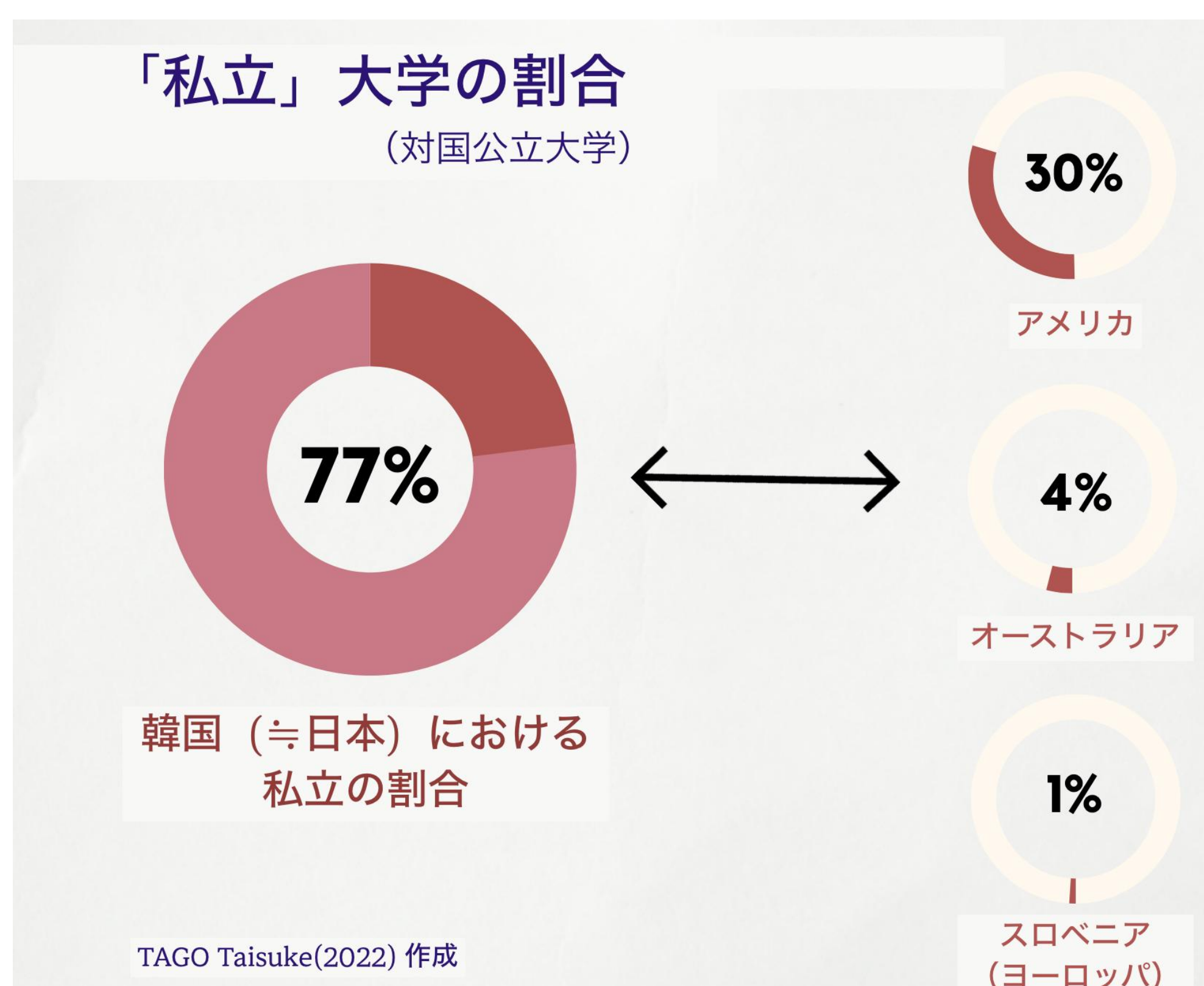
北海道大学 大学院教育学院（日本学術振興会）
生涯学習論講座 博士課程（特別研究員）



未来社会のあるべきかたち

- ◆ 普通の人々（人生）が夢を諦めなくて良い社会
- ◆ 多様な人々の大学進学による、社会&国の発展
- ◆ 学生たちが学業に集中できる社会（社会の発展）

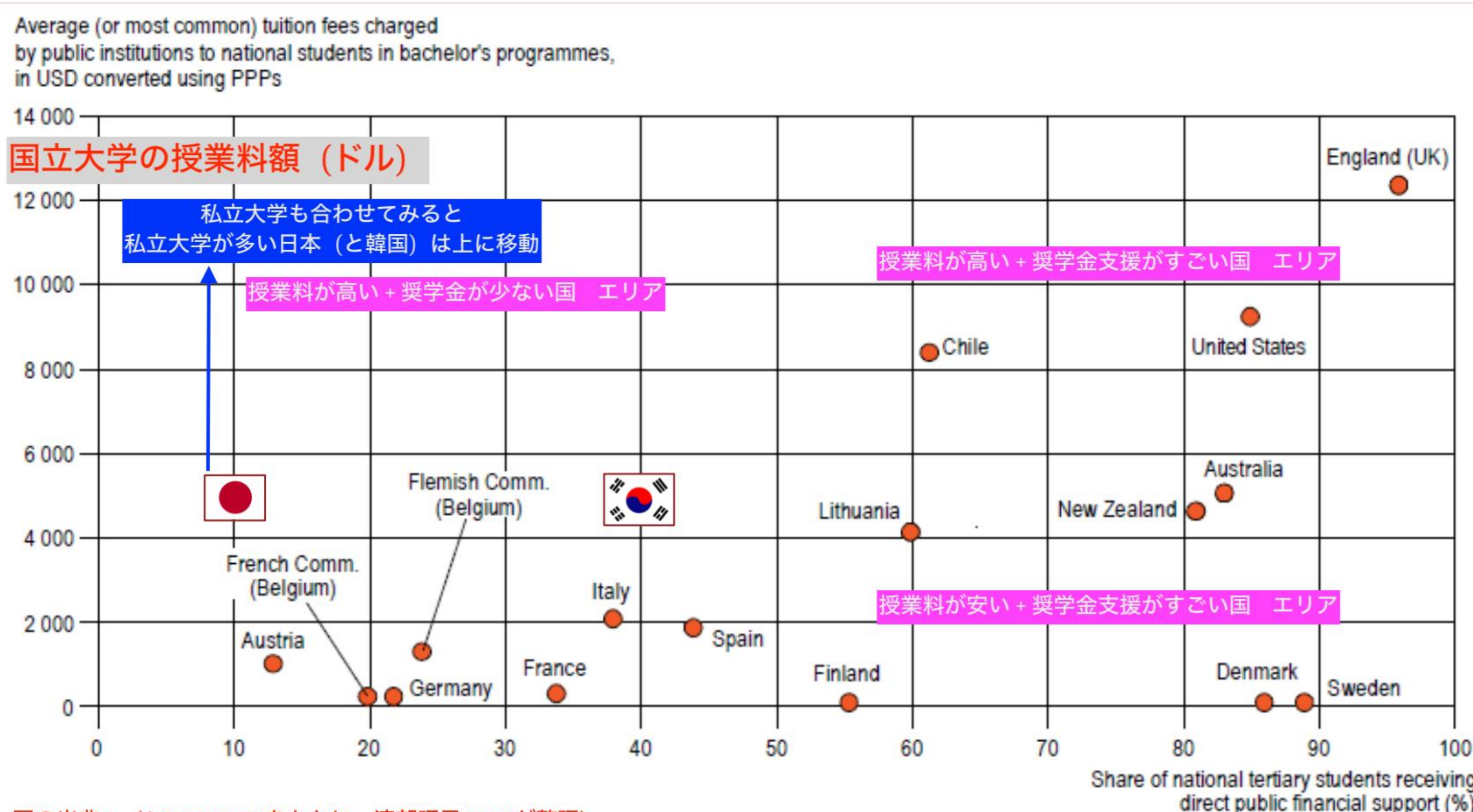
国公立大学より授業料が高い「私立」大学が多いのは当たり前？



↑図のように、私立大学の割合が大きいのは、
「当たり前」ではなく、「現在の日本」の一時的な特徴

+私立大学の授業料は、国公立大学の授業料に比べて結構高い！

大学の授業料は、高くて当たり前？
奨学金は、あまりもらえないのが当たり前？



日本と韓国だけが「授業料が高い + 奨学金が少ない国」
日本より奨学金支援が少なかった韓国（授業料額・私立割合は同様）。
2012年以降、奨学金支援を拡大し、今は日本を大きく上回る。

過去15年間、韓国はどうしてそれができたのか？（方法）
奨学金を増やして、どのような問題（副作用）が起きたのか？

→日本の今後を考えるための参考事例として価値が高い！